

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立上尾高等学校 事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	対象学年 : 商業科 : 3 学年 クラス・人数 : 7 組 42 名・8 組 41 名・9 組 41 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (地理) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	世界各国の文化やスポーツを調査し、プレゼンテーションとして発表することで、生徒たちが様々な「知識」を身に付けるだけでなく、お互いの「思考力・判断力・表現力」を伸ばす機会とすることがねらいである。また、調査活動・プレゼンテーションを通してその背景にある世界各国の風土や歴史を学び、スポーツの魅力発見や国際理解の深化を目指す。
5 取組内容	(1)各クラス6班(各班6～7名)に分かれ、話し合いで調査する国を決定する。 (2)それぞれの国の基本情報・民族・言語・宗教・文化・スポーツ等を調査し、プレゼンテーション資料としてまとめる。(主に図書館を利用) (3)各班(6か国)によるプレゼンテーション(5分間×6班)を実施(各教室) (4)各班のプレゼンテーションを4項目で評価 ※自分の所属する班を除く (5)授業者による内容等の補足を行う。



	
6 主な成果	• 座学ではなく調査・プレゼンテーションを自ら行うことで、生徒一人ひとりの知識の「定着」が促された。 • 生徒たちにとって身近な「スポーツ」を切り口のひとつとすることで、楽しみながら学ぶ様子が見受けられた。 • もともと持ち合わせていた世界各国のイメージが、調査・プレゼンテーションを行うことで変化したと話した生徒もあり、国際理解の深化を図ることができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	• 各クラス2回のプレゼンテーションを実施し、12か国(6か国×2)について学ぶことができた。 • 「スポーツ」とその国の風土や歴史との関わりを深く学ぶことができた。 • プレゼンテーション形式により、表現することの難しさや楽しさを学ぶことができた。
8主な課題等	• 一部の班はパワーポイントを利用したプレゼンテーションを実施したが、現状では校内におけるICT環境が充実しているとは言えないため、すべての班がそれらを使用したプレゼンテーションを行うことができなかった。 • 紙芝居や手作り資料を一生懸命に作成したり、演劇の要素を交えたりするなど、プレゼンテーションの工夫が多々見られたため、今後もパワーポイントに固執しないプレゼンテーションに取り組んでもらいたい。
9来年度以降 の実施予定	本授業形式は、今年度がまだ2年目の取り組みであるため、来年度はさらに「改善」を加えた上で実施したい。